

第4学年 音楽科学習指導案

授業日 平成29年8月10日(木)

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 佐藤 史人

会場 筑波大学附属小学校 音楽室

1 題材名

箏に親しもう ―日本の音階で旋律づくり―

2 本題材の価値

昨年12月の中教審答申では、「我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと」の「更なる充実が求められる」と示された。これを受け、新しい学習指導要領では、これまで第5学年及び第6学年において取り上げる旋律楽器として例示していた和楽器を、第3学年及び第4学年にも新たに位置付けることとした。そして、我が国や郷土の音楽の指導に当たっての配慮事項として、「音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること」を新たに示したことは、特筆すべき点の一つである。

では、我が国や郷土の音楽の授業はどのように行えばよいのだろうか。これまで和楽器や我が国の音楽にふれる機会が少なかった教師(私自身も含む)は、このような不安を抱いている。

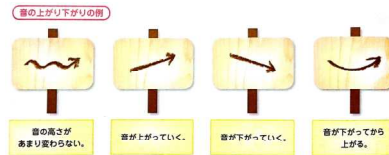
私は、本題材において、我が国の音楽を教材とした音楽づくりの学習を提案する。

これまでも我が国の音楽を教材とした音楽づくりの学習は行われてきた。

音階の音で旋律づくり

音階の音を使って、4分の4拍子で2小節の旋律をつくりましょう。

- 1 下の音階は日本の音階の一つです。楽器で演奏して、音階の感じを確かめましょう。



- 2 例を参考にしながら、旋律の音の上がり下がりリズム、終わりの音をどのようにしたいかを考え、1の音階を使って旋律をつくりましょう。(H27年度「小学生の音楽5」教育芸術社より)

音楽を形づくっている要素の特徴を生かして音楽をつくる学習である。五線譜を使ったいわゆる西洋的な音楽の味わい方・考え方も言える。私も、教科書のような流れで音楽づくりを行ってきた一人であり、この学習を否定するわけではない。しかし、我が国の音楽の指導において、旋律楽器として和楽器も積極的に扱い、我が国の音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくためには、より日本的な音楽の味わい方・考え方で音楽づくりの学習にアプローチしたいと考えた。

伊野(2015)は、日本伝統音楽理解への基本的な視座として、次のように述べている。

(前略)

3 日本伝統音楽理解への基本的な視座

以上を踏まえ、授業への展開といった点から次のことが言える。

- ・一つの様式による音楽に対して、すでに持っている自身の音楽理解の方法を疑わずに理解しようとするのを避けること。
- ・その音楽の当事者の側に立った理解の仕方がどのようなものであるのかに心を配ること。
- ・その結果を様式による音楽用語を核に、一般的な音楽用語(西洋音楽に通じる用語、共通事項の要素名など)も用いて語っていくこと。(後略)

(伊野義博(2015)「日本伝統音楽授業における認識法の相克服へ向けた整理と提案―要素の見方を中心に―」,新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編 第8巻第1号 より)

我が国の音楽の学習法(例えば、口唱歌を使う、縦譜を活用する等)を真似たり、活用したりする授業を考え、実践へつなげることが大切であるということである。

そこで、私は、次のように題材を構想する。

旋律楽器として箏(平調子)を扱う。箏について名称や奏法を簡単に説明したうえで、まず、口唱歌を提示しながら、旋律を演奏させる。次に、身近な箏曲を聴かせ、口唱歌を用いて演奏した旋律が使われていると感じ取らせる。そして、口唱歌を用いて演奏した旋律を生かしながら、グループで旋律をつくる時間を設定する。最後に、発表会を設定して互いの作品を味わわせる。

我が国の音楽を教材とした音楽づくりの学習において、このように働き掛けることで、子どもは我が国の音楽に親しみ、よさを一層味わうことができると考える。

3 目標

- 箏の演奏を通して我が国の音楽のよさや面白さを感じ取り、箏で簡単な旋律をつくることができる。

4 指導計画(全3時間) 本時1/3

第一次 箏の演奏を体験する。箏を使ってグループで数小節の旋律をつくる。(本時)

第二次 和の素材(俳句や写真等)と組み合わせて、イメージを伝える作品をつくる。(2時間)

(例: つくった旋律をBGMにして“日本の和”を伝えるスライドショーをつくろう)

5 本時の指導

(1) 目標

- 口唱歌を用いた箏の演奏を通して、我が国の音楽のよさや面白さを感じ取ることができる。
- 口唱歌を用いて演奏したことを生かしながら、グループで数小節の旋律をつくることができる。

(2) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 箏について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・名称, 爪, 弦, 奏法, 口唱歌等について ○ 口唱歌を用いて箏を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「コロリテン」, 「コロリン コロリン」等を覚える。 ・順に交代しながら箏を演奏する。 ○ 身近な箏曲を聴いて, 口唱歌を用いて演奏した旋律が使われていると感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら さくら」, 「うさぎ」等 ・イメージしながら演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽器を用意し, 説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師用の箏(一面), 児童用の箏(七面) ・爪のはめ方, 弦名, 奏法, 口唱歌等について ○ 口唱歌を提示し, 実演する。 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の口唱歌を提示し, 教師が演奏した旋律はどの口唱歌かを問う。 ・実演しながら, 必要に応じて奏法を伝える。 ○ 身近な箏曲を部分的に聴かせ, 気付いたことを問う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「コロリン」はどこか。 ・どんな「さくら」のイメージか。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 口唱歌を用いて演奏したことを生かしながら, グループ(4人程度)で数小節の旋律をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律をつなげる, 旋律を重ねる等工夫する。 ・役割やつくった旋律等を学習シートに記録する。 ○ グループの作品を発表する。互いの作品を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで旋律をつくることを提案する。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律づくりの条件を提示する。 <ol style="list-style-type: none"> ①グループで協力する(つなぐ, 重ねる等)。 ②作品のテーマを決める。 ③「コロリン」を取り入れる。 ④学習シートに記録する。 ・学習シートを配付する。 <ul style="list-style-type: none"> ※五線譜ではない。縦書き, テーマや役割等が書き込めるシンプルなもの。 ・グループを回り, 必要に応じて助言する。 ○ 発表の時間を設定する。